

02 私たちの今とこれから

農林水産業の「成長産業化」に向けた
新たな課題の解決に取り組みます。



いま、求められる“架け橋”としての役割

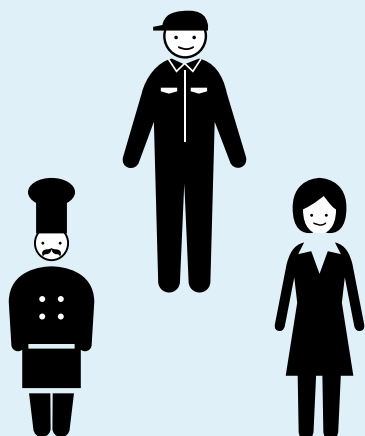
この40年の間に消費者のニーズは大きく変化してきました。現在も、外食や中食など「食の外部化」が進んでいます。生鮮食品の買い手は、キッチンで調理する消費者から外食・加工食品企業へと大きく移ってきました。早くから消費者の声に応えてきたこれらの企業は、年間を通して品質・量・価格の安定した国産品の供給を求めています。こういった企業のニーズに応え、消費者が求めている安心・安全な国産農林水産物を届けていくことは、農林水産業の成長産業化につながると考えています。

そこで私たちは、私たちの強みである全国の農林水産業の生産者との深いつながりと、日本を代表する食品関連企業との長年の取引関係を基盤に、両者を結び付けるコーディネーターとしての役割を發揮していきます。そのために私たちは、単に1次産業と2次・3次産業に橋を“渡す”のではなく、自らが橋を“架ける”思いで取り組んでいきます。マーケットインの発想で生まれる多様なニーズを生産者につなぎ、結果を出すために必要なソリューションを提供していく。こうした取組みが、いま私たちに求められています。

日本の農林水産業、特に農業が産業として成長していくための、重要なポイントが3つあると私たちは考えています。1点目は「これからの農業生産をけん引していく大規模な農家・農業法人における経営力の強化」、2点目は「規模を問わず、さまざまな農家が担っている、地域・集落・生産基盤の守り手機能の維持」、そして3点目は「より一層消費者ニーズに応える生産」です。私たちは、これらに対応していくことが農林水産業の成長産業化のカギだと考えています。

農林水産業関連の産業界

- 資材メーカー ●商社 ●物流
- 食品メーカー ●卸・小売 ●外食産業



消費者



今後の担い手の経営強化と生産基盤の守り手をサポート

高齢化の進展による担い手の減少が続くなか、経営規模の拡大や法人化への動きが本格化しています。こういった農業の流れに対して、私たちは、これからの農業生産をけん引していく大規模な農家・農業法人からより一層頼りにされる金融機関となることを目指しています。

原点強化の思いを持ち、担い手の成長ステージに応じた経営課題に「ハンズオン」で向き合う。融資だけにとどまることなく、経営力の強化を実現する多様なソリューションを提供し、担い手の長期的な成長を支援していきます。

一方で、農業経営体の9割は規模の小さな家族農家が占めています。山地が多く地域ごとにさまざまな特性を持つ日本では、規模を問わず多様な担い手が、農業生産とともに、水路や農地といった生産基盤や地域における集落の維持、国土・環境保全といった多面的な機能を担っており、こうした役割が発揮され続けることが、農業の持続的な発展の前提になっていると考えています。

私たちは、こういったさまざまな農家をサポートし、トータルで農業が成長産業となることを目指していきます。